

山梨県立美術館協議会資料

令和3年11月26日(金)

山梨県立美術館

○

○

目 次

ページ

<u>山梨県立美術館協議会名簿</u>	1
<u>山梨県附属機関の設置に関する条例 他</u>	2
<u>山梨県立美術館組織図</u>	4
<u>指定管理者組織図</u>	5
<u>山梨県立美術館活動報告(概要)</u>	7
<u>観覧者数の推移</u>	8
<u>施設利用者の状況</u>	9
<u>令和2年度～令和3年度 特別展等一覧</u>	10
<u>教育普及について</u>	11
<u>指定管理者活動報告</u>	17

O

O

山梨県立美術館協議会委員名簿

任期：令和2年10月1日～令和4年9月30日

区分	氏名	役職	出身分野(勤務先等)
委嘱	澤田 隆雄	山梨県市町村教育委員会連合会代表(副会長)	社会教育関係 (山梨市教育長)
"	塩島 明美	山梨県社会教育委員連絡協議会代表	社会教育関係 (市川三郷町社会教育委員)
"	向山 富士雄	南アールプス市立美術館館長	学識経験者 (南アールプス市立美術館館長)
"	鶴田 一香	山梨県文化協会連合会代表	学識経験者 (山梨県文化協会連合会会長)
"	古屋 知子	元山梨県教育委員会教育委員長	学識経験者 (元山梨県教育委員会教育委員長)
"	保坂 博司	山梨美術協会代表	学識経験者 (山梨美術協会代表)
"	高野 孫左之門	株式会社吉字屋本店代表取締役社長	学識経験者 (株式会社吉字屋本店代表取締役社長)
"	野口 英一	報道関係	学識経験者 (山梨放送・山梨日日新聞社社長)
"	原田 由起彦	報道関係	学識経験者 (テレビ山梨代表取締役社長)
"	安出 光伸	報道関係	学識経験者 (NHK甲府放送局局長)
"	仲田 道弘	公益社団法人やまなし観光推進機構理事長	学識経験者 (公益社団法人やまなし観光推進機構理事長)
"	雨宮 美美子	公募委員	家庭教育関係者
"	神宮司 洋子	公募委員	家庭教育関係者
任命	河野 瑞穂	山梨県公立小中学校長会代表	学校教育関係 (南アールプス市立若草南小学校長)
"	古郡 文春	山梨県高等学校長協会代表	学校教育関係 (県立農林高等学校長)

○山梨県附属機関の設置に関する条例 (抜粋)
(趣旨)

第一条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第百三十八条の四第三項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

(附属機関の設置及び担当事務)

第二条 執行機関の附属機関として、別表第一に掲げる機関を設置し、その担当事務は、同表の担当事務欄に掲げるとおりとする。

2~4 (略)

第三条 (略)

第三条の二 (略)

(組織)

第四条 附属機関は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の要件欄に掲げる者のうちから、執行機関が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の任期欄に掲げるとおりとする。

4 附属機関に、執行機関の規則で定めるところにより、特別委員、専門委員又は臨時委員(以下「特別委員」と総称する。)を置くことができる。

5 特別委員は、執行機関の規則で定めるところにより、知事が任命し、又は委嘱する。
(会長等)

第五条 附属機関に、執行機関の規則で定めるところにより、会長又は委員長(以下「会長」と総称する。)及び副会長又は副委員長(以下「副会長」と総称する。)を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあつては、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。
(会議)

第六条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、執行機関の規則で定める場合を除くほか、委員の二分の一以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。
(部会等)

第七条 附属機関に、執行機関の規則で定めるところにより、部会又は小委員会を置くことができる。

第八条 (略)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、執行機関の規則で定める。

別表第一(第二条、第四条関係)

一 知事の附属機関

附属機関	担当事務	委員の定数	委員の要件	委員の任期
山梨県立美術館専門委員会	博物館法昭和二十六年法律第三十号第八十五号の第三項の規定による山梨県立美術館の運営に關する事項の調査審議及び意見の提出に關する事務	七人以上	一 学識経験のある者 二 優れた識見を有する者	二年

○山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則（抜粋） 山梨県規則第八号

(趣旨)

第一条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例（昭和六十年山梨県条例第三号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(補欠の委員の任期)

第二条 委員に欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第三条 (略)

(会長等)

第四条 条例第五条第一項の規定により、附属機関〔次に掲げる附属機関を除く。〕に会長を（略）置く。

2～3 (略)

(定足数の特例)

第五条 条例第六条第二項の規定で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	定足数
山梨県立美術館協議会	過半数
山梨県考古博物館協議会	過半数
山梨県文学館協議会	過半数

第六条～第七条 (略)

(資料の提出等の要求)

第八条 附属機関は、その担任する事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係行政機関の長に対して、資料の提出、意見の開陳、説明その他の必要な協力を求めることができる。

(意見の開陳)

第九条 関係行政機関の職員は、会長の許可を得て、附属機関の会議に出席し、審議事項に関して意見を述べることができる。

第十条～第十一条 (略)

(庶務)

第十二条 附属機関の庶務は、別に定めるところにより、処理する。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

○博物館法（抜粋）

(所管)

第十九条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第六十二号）第二十三条第一項の条例の定めるところにより地方公共団体の長がその設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされた博物館にあつては、当該地方公共団体の長。第二十条において同じ。）の所管に属する。

(博物館協議会)

第二十条 ~~公立博物館は、博物館協議会を置くことができる。~~

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べ得る機関とする。

第二十一条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

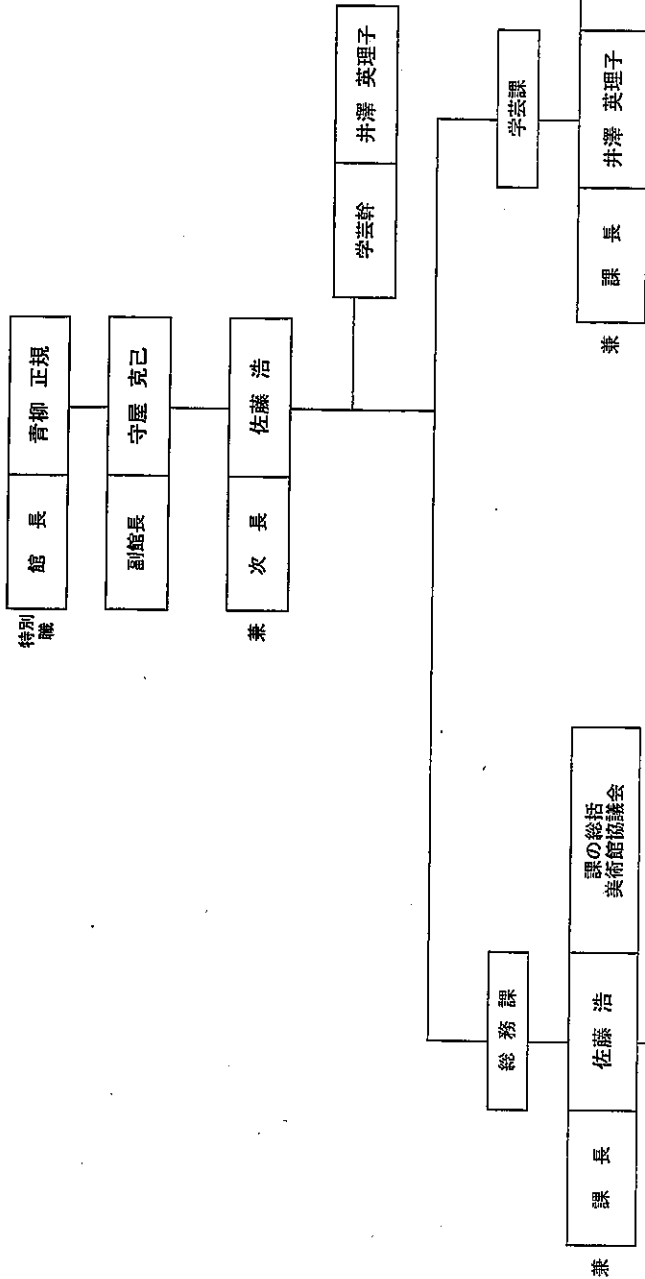
第二十二条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

美術館組織図

令和3年4月1日現在

所屬名	県立美術館	
正規職員	特別非常勤職員	会計年度任用職員
11	1	6
兼(1)		18
		兼(1)

※次長は文学館勤務で、美術館と兼務



学芸担当

職名	氏名	主たる業務
リーダー学芸員	平林 彰	担当の総括 日本近世・近代絵画
学芸員	太田 智子	西洋近代絵画、現代美術
学芸員	森川 もなみ	西洋・日本近代美術
学芸員	下東 佳那	日本現代美術・現代洋画
会計年度任用職員	雨宮 千鶴	学芸補助
会計年度任用職員	伊藤 茜	学芸事務
会計年度任用職員	成島 由季子	学芸事務
会計年度任用職員	櫻井 ひかる	学芸事務

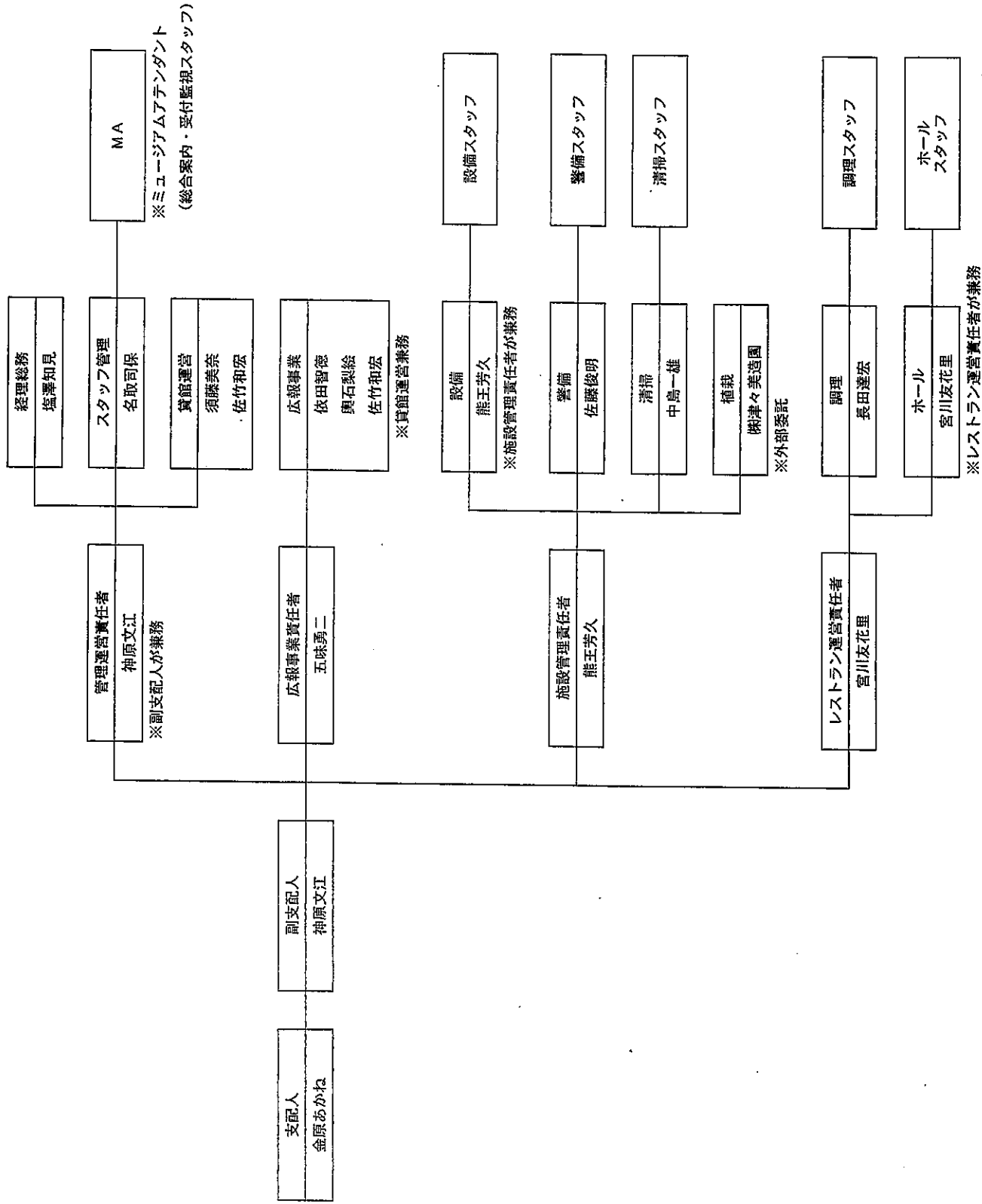
普及担当

職名	氏名	主たる業務
リーダー学芸員	高野 早代子	担当の総括 県関係作家、保存
主任	小林 紀子	美術館教育
主任	加藤 祥子	美術館教育
会計年度任用職員	藤木 成弘	協力員指導

美術館協力会

職名	氏名	主たる業務
協力会職員	小杉 佳子	協力会経理
協力会職員	矢崎 理江	協力会経理

※次長は文学館勤務で、美術館と兼務





山梨県立美術館活動報告（概要） 令和3年度

美術館活動における長期目標

○県民の美術に関する知識・教養の向上を図り、県民文化の発展に寄与するため以下のような長期目標を掲げる。

【展示／見る】幅広いジャンルでの質の高い特別展示とともに、「西洋美術」「山梨ゆかりの美術」「日本の近現代美術」などのコレクション（常設）展示の一層の充実を図る。

【教育普及／学ぶ】生涯学習の進展や教育課程における総合学習の充実化にともない、より多様な学習機会の提供を行う。

【付加価値・魅力／憩う】本来の美術館機能に加え、さまざまな付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供を行い、文化観光の拠点をめざす。

令和3年度以降の中期目標

【展示／見る】多様な来館者ニーズに応え、幅広いジャンルの特別展や魅力あるコレクション展をバランス良く開催する。／開催趣旨と目標（集客、研究、人気もの etc）を明確にした企画展の開催と、リピーターとして何度も美術館に行きたくするような魅力あるコレクション展示の創出。／山梨の美術を再検証するとともに、郷土関係作家の新たな展覧会を企画立案。／アンケート調査など県民ニーズ等の把握に積極的に取り組み集客力の向上を図る。／広報活動の強化。

【教育普及／学ぶ】ワークショップや講座の充実を図り、より幅広い県民の参加を促進。／ワークショップや講座にオンラインを積極的に活用し、美術館に来館できない人々にも参加を促す。／県民ニーズに応じた美術館教育プログラムの作成・提供に務め、世代別・習熟度別プログラムや障がい者への実技講座なども実施していく。／教育現場と連携して、年齢ごとの学びの場として会場を提供し、キャリア教育等にも活かしていく。／学校と連携して、児童生徒への実技指導を実施。また、学校の教師への実技指導・美術教育に関する積極的な意見交換も行う連携を深める。

【付加価値・魅力／憩う・広報活動】〈質の高いサービス提供〉 ボランティアのスキルアップをめざす研修・学習会を実施。／〈様々な付加価値の創造〉 地元音楽家・団体や学校現場との協働によるロビーコンサートを毎週日曜日に開催。（SPS） ・ミュージアム甲斐 in 券並びに定期観覧券所持者への割引サービス。 ・ミュージアムショップでの楽しい買い物に向けて、魅力ある新商品の開発等を実施。 ・県民との円滑なリレーションシップを目指して、本美術館の特色・魅力をしっかりと情報発信。 ・やまなしの文化情報ネットワークやノウハウを最大限活用した積極的な広報とパブリシティの実施。 ・レストランサービスの向上をめざして運営企業と情報交換・協議。 ・首都圏からの来館者増を目的に、中央紙への広告の掲載。（SPS）〈県・指定管理者・県民との円滑なリレーションシップ〉 本美術館の特色・魅力を十分に伝えられる情報発信・積極的な広報とパブリシティの実施。 ・展覧会事業を報道機関と共催、県民への情報提供の機会を増加。 ・新たな集客に向け、アンケートによる調査などを積極的に取り入れ、県民ニーズの把握に努める。

▶▶▶▶▶これらの取り組みを着実に進めて、より多くの県民の来館に結びつける。

令和3年度前期の活動状況

【展示／見る】

〈コレクション展〉

春季「野口コレクションの動物たち～禽獣虫魚の世界～」 「画家たちの戦後 -池田龍雄を中心に-」 「令和元・2年度新収蔵作品」 他

夏季「野口コレクション 逸品×珍品 大集合！」 「没後50年 穴山勝堂」 「現代美術コレクションにみる花と写真」 他

〈特別展〉 ※別紙「R3（2021）年度 特別展概要」参照

- ・テオ・ヤンセン展 4月24日（土）～6月22日（火）
- ・蜷川実花展 7月10日（土）～8月29日（日）※R2年度中止。本年度に延期して開催。
- ・新版画 9月11日（土）～10月24日（日）

〈キュレーターズ・アイ〉

- ・針生 卓治 展 4月27日（火）～7月25日（日） ※R2年度中止。本年度に延期して開催。

【教育普及／学ぶ】

・みんなでつくる美術館（みなび） 「自分のための巣をつくる」 昨年に引き続きメインアーティストに村上慧氏を迎え、作品画像を募集展示。中・高・大学校、一般絵画造形教室の「巣」を村上作品と共に館内各所に展示。 ※館内ワークショップは中止

・特別展関連ワークショップ 「蜷川実花展」：光探しと写真／「新版画」展：木版多色刷ちよこっと体験
・スクールプログラム 「対話的な鑑賞」「創作体験」については現在も控えているが、職場体験は人数と日数の制限をして受け入れ

- ・造形広場 人数を制限（1回8組まで）して実施
- ・教師のための鑑賞研究会 「新版画」展講演会をオンラインで配信
- ・映画会 申込制で実施
- ・美術体験・実技講座 定員を15名に減らし貴石彫刻・研磨体験、銅版画初心者講座、銅版画講座、油彩画講座、オープンアトリエを実施

【文化庁支援事業】 「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」 採択。最長で5年間継続（R2～6年度まで）

・文化資源デジタル化・コンテンツ開発事業 高精細画像撮影、配信：10,000dpi（400K相当）のマスターデータの他、20K、8K、2Kなど汎用性の高いデータ制作。2K画像をHP公開。（R2年度）ミレー《種をまく人》《落ち穂拾い、夏》《夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い》（R3年度）ミレー《ポーリーヌ・V・オノの肖像》《鶏に餌をやる女》《ヴォージュ山中の牧場風景》

作家・作品紹介動画制作：R2年度制作のミレーのオリジナルキャラクターを使用して、その生涯と作品に焦点をあてたアニメーション制作。館内放映、HPやSNSを利用して動画配信。

・作品鑑賞プログラム魅力増進事業 認知症ケア鑑賞プログラム／視覚障がい者のための鑑賞プログラム 他：多様な人々に美術館の魅力を体感してもらうためVTSを核とした鑑賞プログラムの開発、実施。

・アーティストとの連携強化による魅力的なプロジェクト開発事業 地域一帯アートイベント空間の創出のためのプロジェクトプランの「公募・選考・制作・公開」（山梨アート・プロジェクト）
：アートをとおして、館を中心に地域一帯で山梨の多様な文化資源の魅力を掘り起こし、アーティストの活躍の場と参加者とのコミュニケーションを創出する。会場は、芸術の森公園（2箇所）、藤村記念館

・美術館を中核とした文化・自然・食→well-being 体感イベント事業 「山梨マルシェ」の開催

令和3年度後期の活動状況、および予定

【展示／見る】

〈コレクション展〉

秋季「野口コレクション 逸品×珍品 大集合！」 「絵画の中の、その向こう -画家たちが描いた仮想空間」 「土屋義郎 豊穡の筆あと」 他

冬季「虎と千支の動物たち」 「山梨画人伝 わたなべゆう」 「ワンダフル・ワールド」 (美術館からのクリスマス・プレゼント&お年玉企画) 他

〈特別展〉 ※別紙「R3（2021）年度 特別展概要」参照

- ・シダネルとマルタン展 11月3日（水・祝）～令和4年1月10日（月・祝）

〈コレクション企画展〉

- ・クローン文化財・《種をまく人》（仮称） 令和4年3月15日（火）～3月27日（日）

【教育普及／学ぶ】

- ・創作教室 ・造形広場 ・美術体験・実技講座（初心者・障がい者含む） ・映画会
- ・特別展関連ワークショップ 「シダネルとマルタン展」：冬の光のもとで絵を描こう
- ・特別展担当学芸員によるみどころ解説 「シダネルとマルタン展」11月13日（土） 11：00～
- ・特別展担当学芸員によるギャラリー・トーク「ナイト・ミュージアム」 「新版画」10月15日（金）／「シダネルとマルタン展」11月19日（金）、12月17日（金） 18：30～
- ・ミニ・ワークショップ

「博学連携を中心とした学校・社会教育施設との連携強化」として

- ・校外学習への対応（オリエンテーション、展示室での鑑賞、実技体験）
- ・学校への出前授業 ・アートボックス貸出 ・アート・カードのレクチャー及び貸出 ・施設の貸出
- ・教師のための鑑賞研究会 「シダネルとマルタン展」オンライン開催

「地域との連携強化」として

- ・美術館周辺校（新田小学校）との6カ年を通じた継続的な連携。
- ・「ちよこっと体験ワークショップ」を実施。

山梨県立美術館の観覧者数の推移

年度	開館日数	常設展	特別展・新収蔵品展等	観覧者数合計
S53	118	160,594	91,501	252,095
54	295	316,325	152,418	468,743
55	298	410,214	110,951	521,165
56	297	421,759	124,772	546,531
57	296	401,864	107,843	509,707
58	295	391,408	118,381	509,789
59	298	416,423	87,280	503,703
60	299	396,782	193,786	590,568
61	302	443,656	116,263	559,919
62	298	454,876	78,845	533,721
63	296	471,011	109,642	580,653
H1	304	408,088	71,341	479,429
2	293	409,354	69,818	479,172
3	300	379,707	162,035	541,742
4	290	359,582	155,457	515,039
5	287	320,179	97,028	417,207
6	278	270,067	79,467	349,534
7	300	262,845	71,246	334,091
8	289	276,556	86,910	363,466
9	293	202,358	53,780	256,138
10	281	266,846	167,521	434,367
11	298	176,533	89,962	266,495
12	300	149,708	84,963	234,671
13	301	122,857	65,484	188,341
14	301	166,783	131,560	298,343
15	288	90,783	43,766	134,549
16	298	115,874	83,408	199,282
17	301	100,777	50,203	150,980
18	309	96,898	35,385	132,283
19	309	99,823	64,421	164,244
20	307	112,410	85,669	198,079
21	309	117,250	57,803	175,053
22	310	98,986	61,123	160,109
23	310	103,181	84,090	187,271
24	311	120,650	67,736	188,386
25	306	97,569	59,204	156,773
26	308	137,316	112,138	249,454
27	307	97,675	103,380	201,055
28	306	80,474	68,718	149,192
29	305	76,898	67,127	144,025
30	303	90,090	106,226	196,316
R1	280	76,546	120,458	197,004
R2	255	40,319	34,716	75,035
計	12,629	9,809,894	3,983,825	13,793,719

令和3年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	3,564
5	26	6,965
6	27	6,070
7	27	5,289
8	6	1,494
9	16	2,480
10	27	5,367
11		
12		
1		
2		
3		
計	155	31,229

令和2年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	0	0
5	0	0
6	25	1,810
7	27	3,031
8	27	3,441
9	26	5,011
10	27	7,295
11	25	7,162
12	22	2,689
1	26	2,996
2	24	2,435
3	26	4,449
年度計	255	40,319

10月まで計	132	20,588
--------	-----	--------

前年同期比

151.7%

※R2年2月28日～5月31日、R3年8月8日～9月12日は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示室を休止

特別展・新収蔵品展等 (R3年10月まで)

展覧会名	開催日数	観覧者数
テオ・ヤンセン展	52	21,733
蜷川実花展	25	13,430
新版画展	37	6,921
シダネルとマルタン展		
	114	42,084

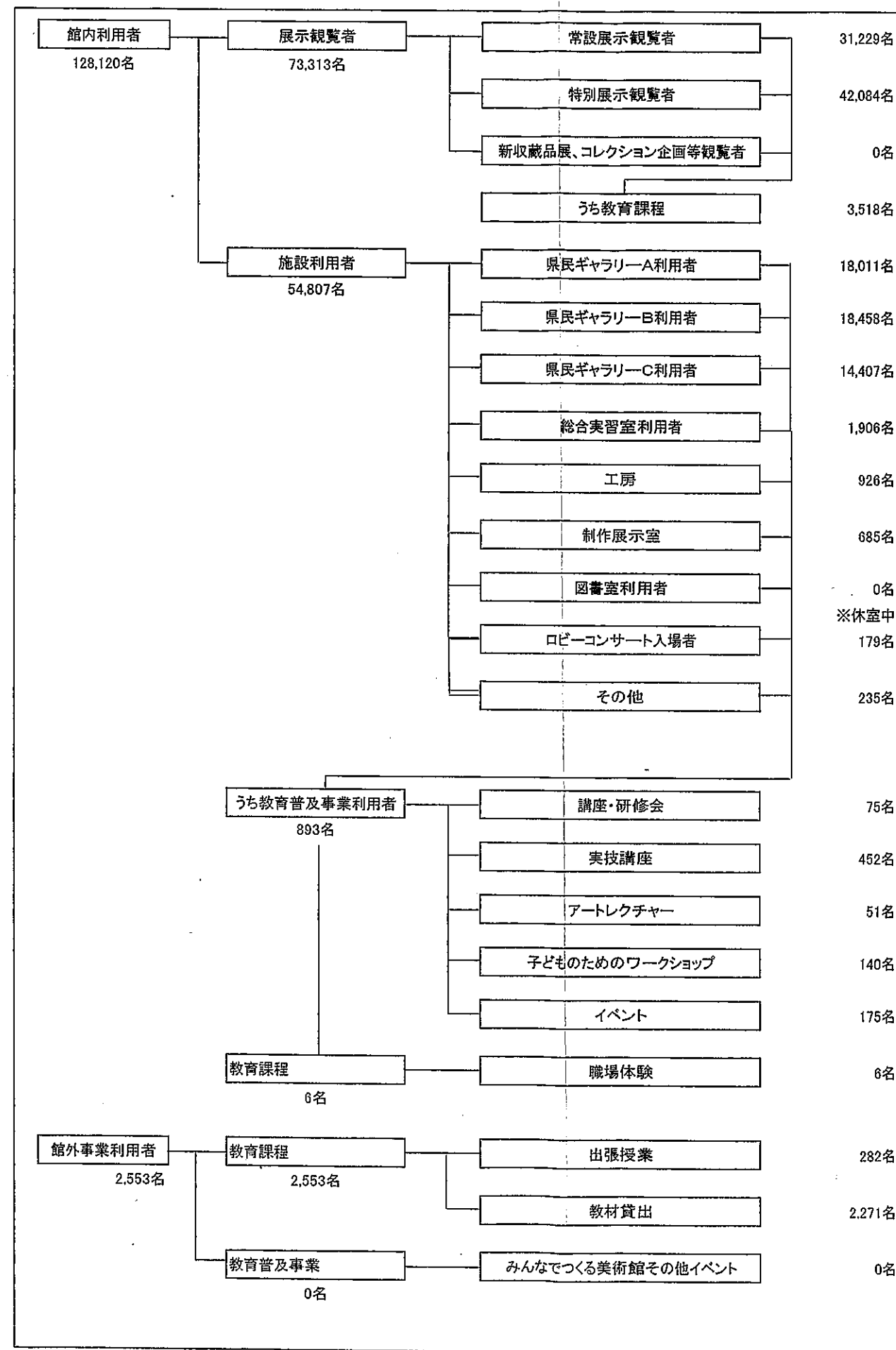
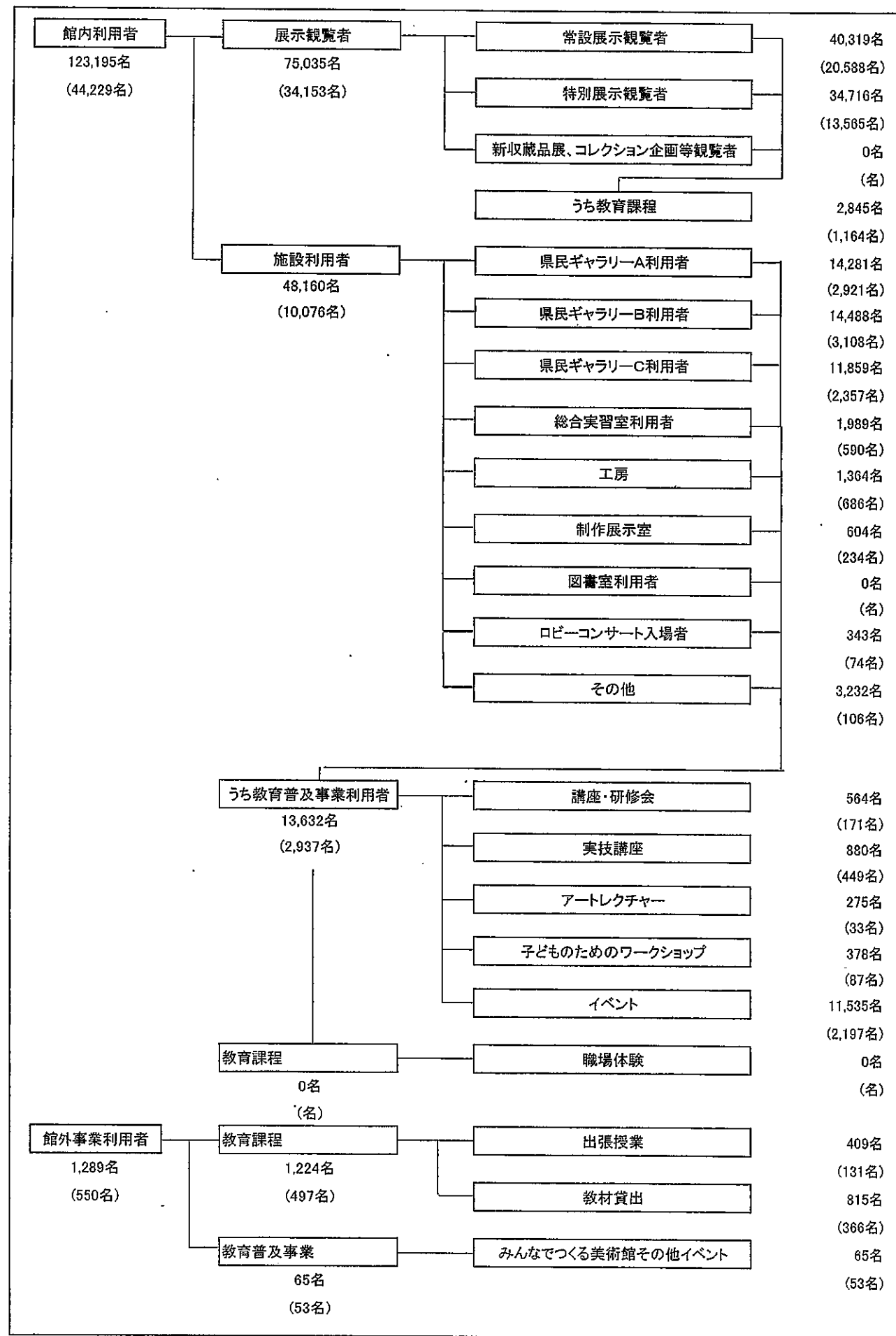
特別展・新収蔵品展等 (R2年度)

展覧会名	開催日数	観覧者数
蜷川実花展	R3年度へ延期	
クールベと海展	47	15,246
栗田宏一・須田悦弘展	62	8,929
英国王室が愛した花々	40	10,541
	149	34,716

美術館における「利用者」の状況

令和2年度実績。()は令和2年10月末時点


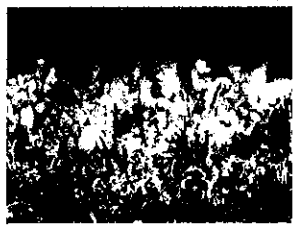

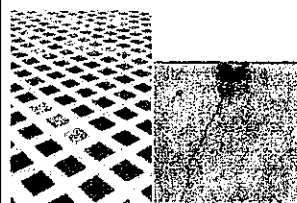


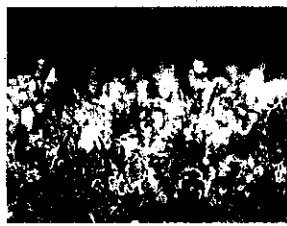


令和3年10月末現在



○美術館の利用者とは、美術館の施設、提供するサービスを利用した者および美術館の事業・活動に参加したすべての対象者をいいます。

R2 (2020) 年度

R3 (2021) 年度

キューガーデン 英国王室が愛した花々 ※中止	蜷川実花展 ※中止	クールベと海	栗田宏一・須田悦弘展	キューガーデン 英国王室が愛した花々	テオ・ヤンセン展	蜷川実花展 -虚構と現実の間に-	新版画 -笠松紫浪を中心に-	シダネルとマルタン展
2020年4月25日(土) ~6月21日(日)	7月8日(水) ~8月30日(日)	9月11日(金) ~11月3日(火・祝)	11月14日(土) ~2021年1月31日(日)	2021年2月11日(木) ~3月28日(日)	4月24日(土) ~6月22日(火)	7月10日(土) ~8月29日(日)	9月11日(土) ~10月24日(日)	11月3日(水・祝) ~2022年1月10日(月・祝)
ユネスコ世界遺産にもなっている世界最大級の植物園が所蔵するボタニカルアートを紹介します。イギリス王室の繁栄と近代植物学の発展を背景として、美しい花々を描いた18世紀の優品を主に展示する。さらに、シャーロット王妃が愛したウェッジウッド社の陶磁器も合わせて紹介する。	独特な色彩感覚で知られる写真家、蜷川実花の様々な作品を紹介する。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事にも就任し、ますます注目される蜷川の世界を堪能できる機会となる。	ミレーらと共にリアリズム(写実主義)を代表する画家のギュスターヴ・クールベ。彼の風景画、とりわけ「海」を描いた作品を紹介する。また以前、同時代の画家たちの作品も展示することで、クールベ作品の特質を明らかにする。	両者は、日本はもちろん、国際的に活躍している現代アーティストで山梨出身。土を採集して展示する手法の栗田と、植物の彫刻でインスタレーションを展開する須田。日常の中にもうひとつの世界を開いてくれる二人の作品を紹介する。	ユネスコ世界遺産にもなっている世界最大級の植物園が所蔵するボタニカルアートを紹介します。イギリス王室の繁栄と近代植物学の発展を背景として、美しい花々を描いた18世紀の優品を主に展示する。さらに、キューガーデンを支えたシャーロット王妃が愛したウェッジウッド社の陶磁器も合わせて紹介する。	「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ」と称されるオランダの作家テオ・ヤンセン。本展では、プラスチックチューブで構成され、風力によって生物のように歩行する造形作品「ストランド・ビースト(砂浜の生命体)」の数々を展示する。一部の作品はリアニメーション(展示室内でのデモンストレーション)の鑑賞を可能とし、迫力ある造形物を体験する貴重な機会となる。	独特な色彩感覚で知られる写真家、蜷川実花の様々な作品を紹介する。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事にも就任し、ますます注目される蜷川の世界を堪能できる機会となる。	写真に取って代わられた浮世絵を復活すべく生まれた新版画。近年、風景面の川瀬巴水や吉田博、美人画の橋口五葉、花鳥画の小原古邨らが注目を集め、再評価が進んでいる。浮世絵からの歴史を丹念に辿ることで、写真にはない芸術的表現を展開する様々な作品を紹介する。また、国内最多の笠松紫浪作品を所蔵する当館の特質を生かし、その再評価を試みる。	19-20世紀のフランスを中心に活躍したシダネルとマルタンは、フランス芸術家協会展(ル・サロン)への出品を通じて深い親交を結んだ。身近な庭や風景、人物などを題材とした鮮やかな作品を通じ、当時、フランスで起きた様々な芸術運動を目撃した二人の画家にせまる。印象派の流れを継承し、鮮やかな色彩と光が特徴的な作品をまとめて見る貴重な機会となる。
								
シデナム・ティースト・エドワーズ《ボタン(ボタン科)》1809年	earthly flowers, heavenly colors (2017) emika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery	ギュスターヴ・クールベ《海》1869年頃 ふくやま美術館	(左) 栗田宏一《soil library》 (右) 須田悦弘《雑草》	シデナム・ティースト・エドワーズ《ボタン(ボタン科)》1809年	テオ・ヤンセン《Animaris Omnia》2018年 作家蔵	earthly flowers, heavenly colors (2017) emika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery	笠松紫浪《霞む夕べ-不忍池畔》1932年 山梨県立美術館	アンリ・ル・シダネル《日曜日》1898年 シャルトルーズ美術館

教育課程における入館者数まとめ

◎令和2年4月1日～令和3年3月31日

	校数	生徒数
小学校	17	625
中学校	18	568
高校	6	422
その他	2	26
計	43	1641

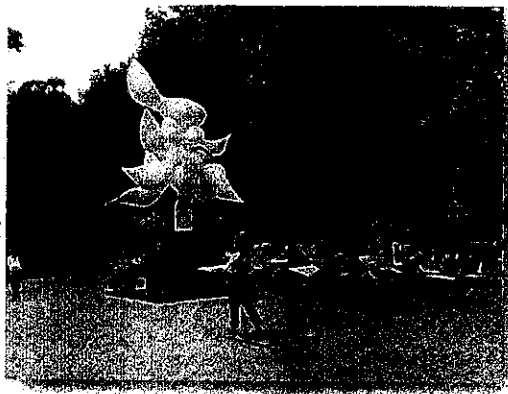
◎令和3年4月1日～令和3年10月31日

	校数	生徒数
小学校	42	815
中学校	43	1235
高校	8	145
その他	11	208
計	104	2403

教育普及/まなぶ

～学校教育との連携～
スクールプログラム

- ・県内外の学校、教育・福祉施設の団体来館者に対して、要望、対象に合わせて「オリエンテーション」「対話的な鑑賞」「創作体験」などを行ってきた。
- ・遠足や校外学習での児童生徒の来館が増えつつある。
- ・中での制作が出来ないので、彫刻探検や彫刻を絵に描く等を実施。



～学校教育との連携～
スクールプログラム

- ・コロナ禍の新たな取り組み、WEB会議システムで学校と美術館をつなぐ。
- ・今後、学校のインターネット環境が整えばますますニーズが高まり、美術館から離れた地域の児童生徒と美術館の展示室をつないで体験的な学習ができようになると思われる。

岩手小学校の児童と
ZOOMを使っての授業。
〈日本の美〉について学習
をした。



～学校教育との連携～

職場体験

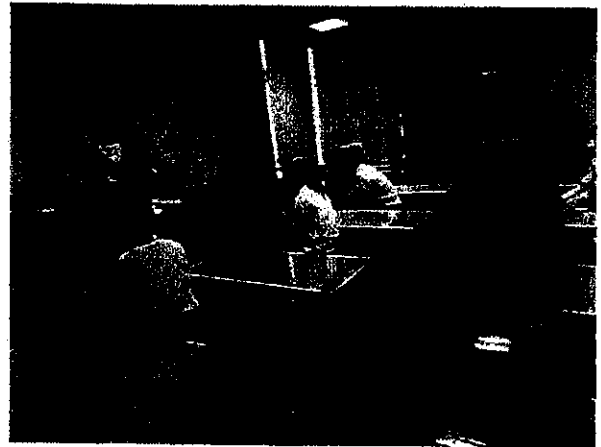
- ・キャリア教育の一環として、様々な事業所で職業について体験的に学ぶ。
- ・今年度は、人数と日数の制限をして、6名、1日のみで受け入れた。

「教師のための鑑賞研究会」

- ・学校の教職員のために、特別展ごとに「鑑賞研究会」を実施。
- ・学校教育と美術館教育との連携。
- ・今年度は、Webで実施。

教員研修

- ・山梨県総合教員センターとの共同開催により、学校の先生方の研修も実施。
- ・幼児教育研修、初任者研修の講義を行った。

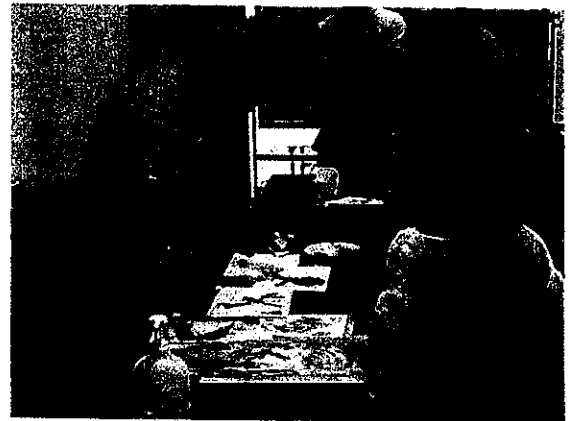


～キッズ・プログラム～

造形広場／創作教室

- ・山梨学院短期大学保育科教授 伊藤美輝先生と学生により、毎月一回実施。
- ・幼児からどなたでも参加できるプログラム。
- ・今年度は人数を制限（1回8組まで）して実施。

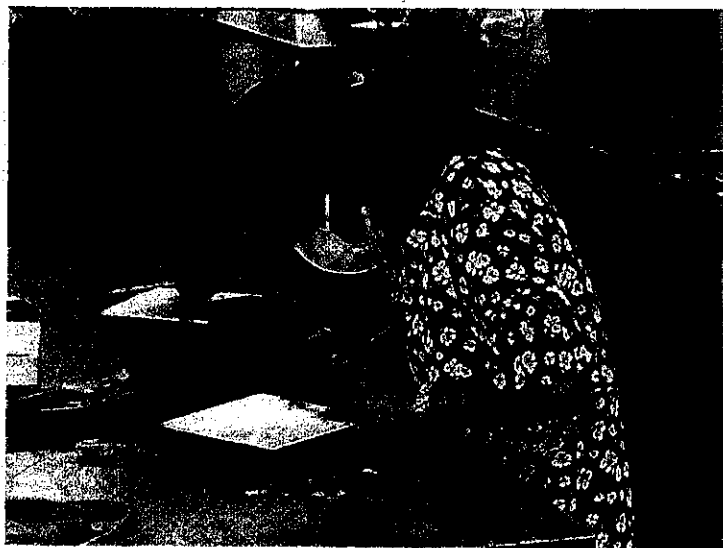
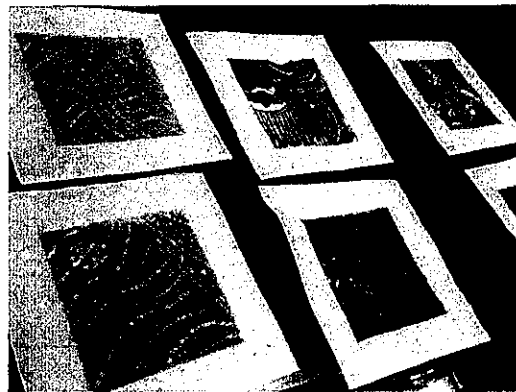
- ・「創作教室」は、年に数回、季節のイベントなどに合わせて実施しており、今年度は1月と来春に実施する予定。



特別展関連ワークショップ (こども美術館 改め)

特別展を、より楽しく学ぶためのプログラムとして、どなたでも参加できる内容で実施。

今年度は「新版画」展に関連し、「木版多色ちよこっと体験ワークショップ」を実施した。(10月16日)



美術体験講座・実技講座

- ・「木版画」や「銅版画」などの版画、「油彩画」、さらに「わかば講座(旧『障害者のための講座』)」などを計画。

- ・「オープンアトリエ」として、絵画や版画を制作する場所を提供している。



わかば講座 (旧障がい者のためのワークショップ)

わかば講座は、障がいのある方を対象に行うワークショップ。当館の教育普及の大きな柱として、あらゆる方々が、美術に親しんでもらえるような活動を行っている。

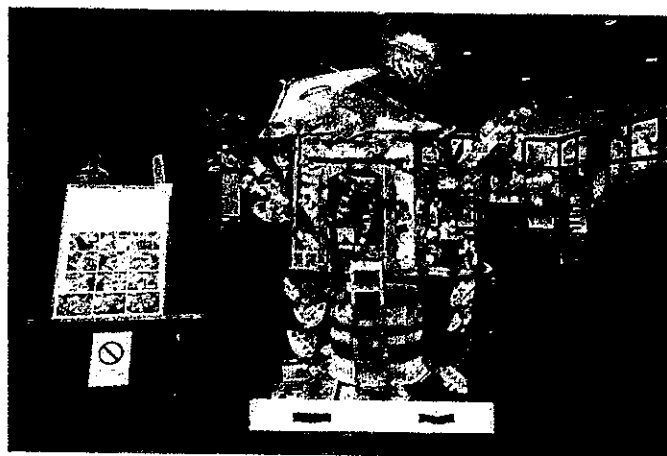
美術体験・実技講座予定(11月現在)

講座名	講師	講師指導日
貴石彫刻・研磨体験	作家：河野すゝむ氏	4月10日(土)
銅版画初心者講座	美術館職員	5月9日(日)
銅版画	作家：齊藤武士氏	5月23日(日)・29日(土)・30日(日) ・6月6日(日)
油彩画	作家：中野宗夫氏	9月19日(日)・26日(日)・10月3日(日)・10日(日)
リトグラフを知ろう	作家：遠藤竜太氏	2022年1月16日(日)
日本画	作家：目黒祥元氏	2月20日(日)・26日(土)・27日(日) ・3月6日(日)
わかば講座	未定	未定
オープンアトリエ		① 4月 1日(水)～5月8日(土) ② 6月8日(火)～6月30日(日) ③ 8月24日(火)～9月9日(土) ④ 10月12日(火)～10月24日(土) ⑤ 1月 9日(日)～1月30日(日)

みんなで作る美術館 ワークショップ「巣づくり」

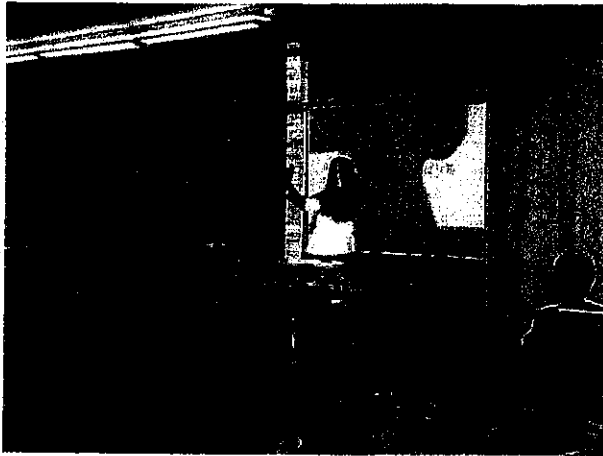
昨年度に引き続き、現代美術作家の村上慧氏をメインゲストに迎えた。

感染拡大防止対策のため休館になってしまい、予定していた美術館でのワークショップはできなかった。ホームワークとして、〈巣〉を制作して頂き、インターネット上で作品を募集し、公開した。



高齢者施設訪問・認知症ケア鑑賞ワークショップ

- ・高齢者施設に訪問し、簡単な創作体験を行った。
- ・アートコンダクター（認知症のある方との鑑賞について特別な研修を受けた専門家）による、対話的な鑑賞を行った。
- ・認知症の方やその家族、施設の方、介助者、見学者などの参加があった。

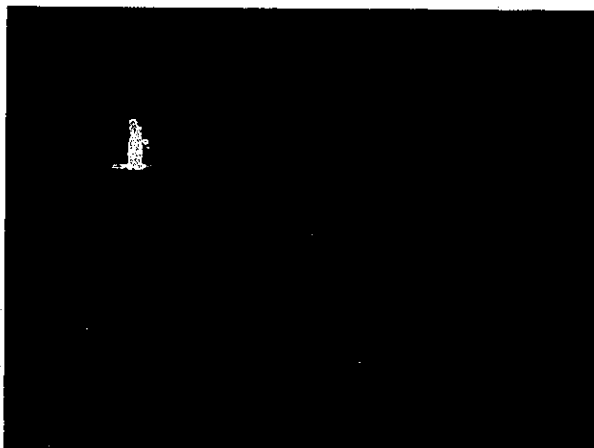


「ミュージアム・シアター」

・月に1度、芸術や開催中の展覧会に関する映画を上映。

・映像という媒体をとおして芸術の魅力を伝える、あるいは特別展をより多角的に楽しむ、また映画という芸術形態自体を楽しむことが目的。

・今年度は、感染拡大防止対策として定員50名の事前申込制とした。



令和3年度 上半期美術館協議会

山梨県立美術館 指定管理者
SPS・桔梗屋・KBS共同事業体

◆目次

- ▶ 1. 指定管理第3期の運営方針
- ▶ 2. 新たな魅力の発掘と発信
 - ① 展覧会観覧誘致のための広報活動
 - ② 観光資源としての魅力アピール
- ▶ 3. レストランの取り組み
- ▶ 4. 安心・安全な施設の維持管理
- ▶ 5. 令和3年度下期に予定している活動

1. 指定管理第3期の運営方針

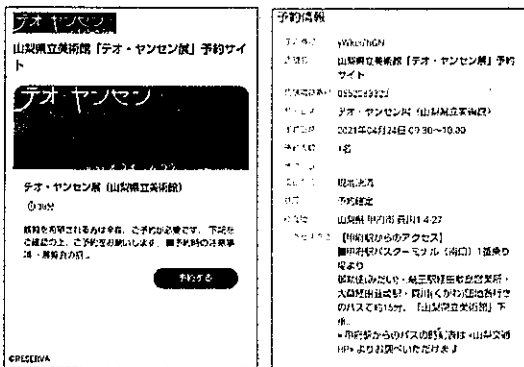
指定管理第3期（4年間）の運営方針

- 施設の新たな魅力の発掘と発信
観光資源としての魅力をアピール
県民の文化芸術活動と交流の場としての利用促進
- 地域連携を通じ文化芸術を拡げる
地元企業や団体等との強固な関係構築
賑わいの創出による地域の活性化
- 安心・安全な施設管理の強化
施設維持管理会社が共同事業体へ参画
効果的・効率的で安定した施設管理

2. 新たな魅力の発掘と発信 —①展覧会観覧誘致のための広報活動

● テオ・ヤンセン展（4月23日～6月22日）来館者：21,733名

コロナ禍で開催された特別展「テオ・ヤンセン展」は、他会場の観覧者数や展示作品の特性上、展示室内が密になることが予想されたため、総務課、学芸課と協議を重ね日時予約制を導入。専用サイトは4/1の正午から稼働。初めての導入にあたりHPやチラシに予約制であることを事前告知した。インターネット環境のない方やスマホ操作ができない方のために電話予約も受け付けできるように準備。会期後半にはキャンセル待ちが2,000件を超える日もあり、予約制がコロナ禍での密の回避に繋がった。



予約サイト（スマホ版）

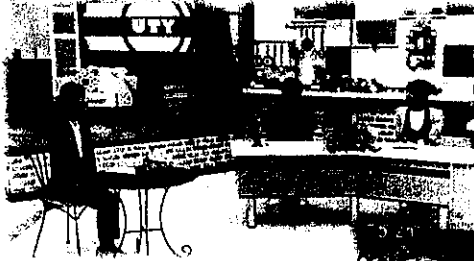
観覧者数 (予約制)の増加に貢献した		
	予約サイト	電話予約
4月	2,059 (92.3%)	20 (0.9%)
5月	9,666 (92.3%)	90 (0.9%)
6月	8,305 (91.9%)	204 (2.3%)

2. 新たな魅力の発掘と発信 —①展覧会観覧誘致のための広報活動

● 蜷川実花展（7月10日～8月7日 ※8/8～29臨時休館） 来館者：13,430人

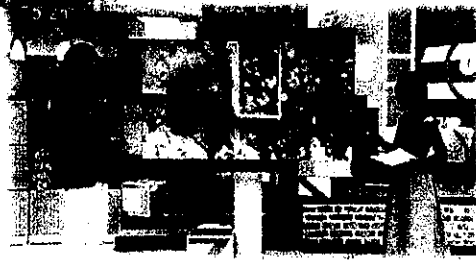
前年実施予定であった特別展「蜷川実花展」が開幕。前日の7/9には、プレスツアーを実施した。報道5社と県立大の学生2名が参加し、新聞や県立大学の生徒によるNOTE（SNS）に掲載された。また、同日にはテレビ山梨の情報番組にSPS広報担当者が出演し、展覧会のPRを行った。

8/3には1万人を達成し、セレモニーを実施。報道2社の取材があった。



7/9 UTYみなみおば
ちゃんのガッチリ金曜日

7/12 UTYスゴク



1万人セレモニー

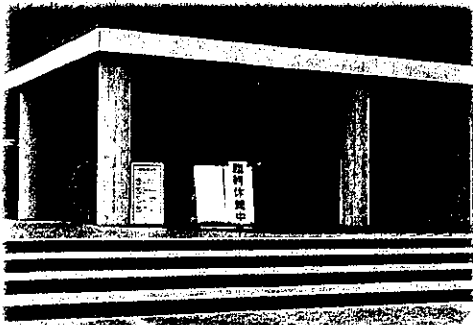
2. 新たな魅力の発掘と発信 —①展覧会観覧誘致のための広報活動

● 新型コロナ感染拡大による臨時休館と再開

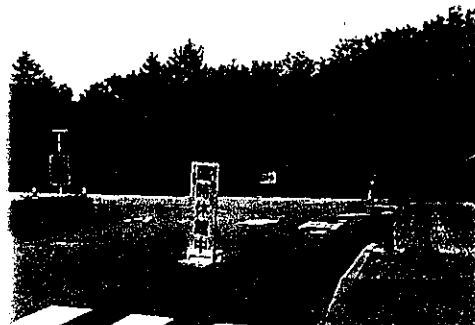
7月8日～22日の間、山梨県知事からの「臨時特別協力要請」により、臨時休館が決定。その後、「まん延防止等重点措置」が発出され9月12日まで休館を延長した。

休館中も電話対応を継続し、「再開はいつか？」「公園の利用は可能か？」「前売券を購入したけどどうすればいいか？」等のお問合せが300件以上あった。

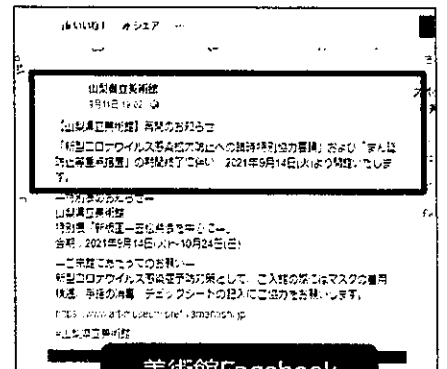
休館や再開の決定時にはホームページやSNSで周知を行い、速やかに情報を提供。感染症対策を継続しながら運営を再開した。（蜷川実花展の払戻し対応:79件）



美術館前掲示



第一駐車場入口掲示

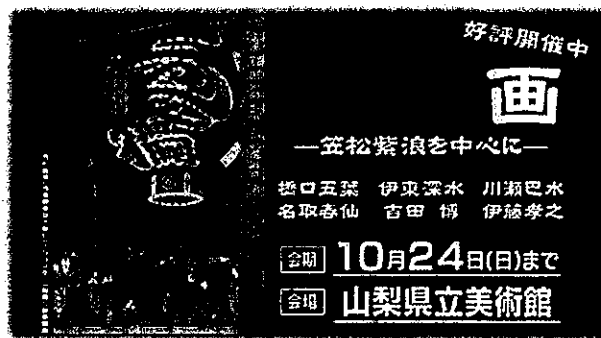
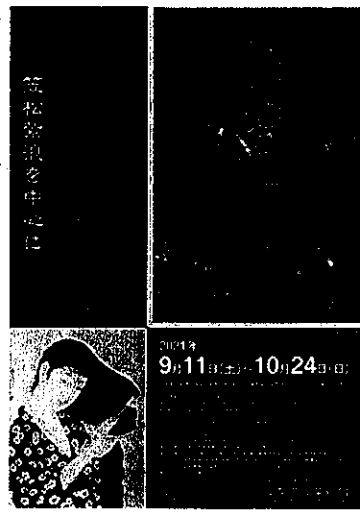


美術館Facebook

2. 新たな魅力の発掘と発信 —①展覧会観覧誘致のための広報活動

● 新版画展 (9月14日～10月24日 ※9/11～12臨時休館) 来館者：6,921人

臨時休館に伴い、特別展「新版画」は9/14からに会期を変更して開幕した。予定していたプレスツアーは実施できなかったが、共催の山梨日日新聞・山梨放送でテレビCMの放映と新聞広告を掲載した。また、会期中に来館者アンケートを実施した。結果は今後の活動の参考にしていく。



新版画テレビCM



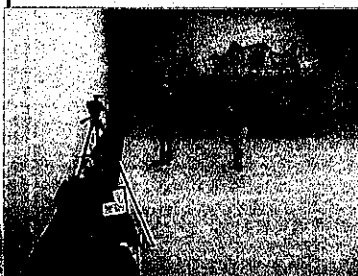
アンケート回答者へのお礼

2. 新たな魅力の発掘と発信 —②観光資源としての魅力アピール

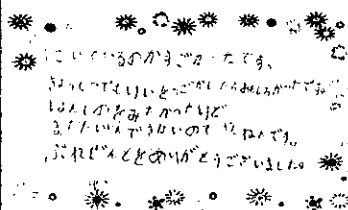
● テオヤンセン展関連イベント

【ストランドビーストに会いに行こう! 6/9実施】

NPO法人山梨まんまらぶの提案に賛同し、山梨医大附属病院で療養中の子供たちに向けて「テオヤンセン展」の中継イベントを企画・実施した。病室と美術館の特別展示室をZoomで繋ぎ、ストランドビーストが実際に動く様子をライブでお届けした。翌日の山梨日日新聞ではコロナ禍での活動として紹介された。



イベント当日の様子



子どもたちからのお礼状

【ストランドビーストを動かそう 6/25実施】

貢川進徳幼稚園の園児を招待し公園内でストランドビースト「オルデイス」を動かす体験をイベントを開催。来園者にも同様の体験をしていただく時間も設けた。事前の取材依頼も奏功し、当日は7社の取材関係者がかけつけた。

Twitterに動画を投稿すると7.4万の再生があった。



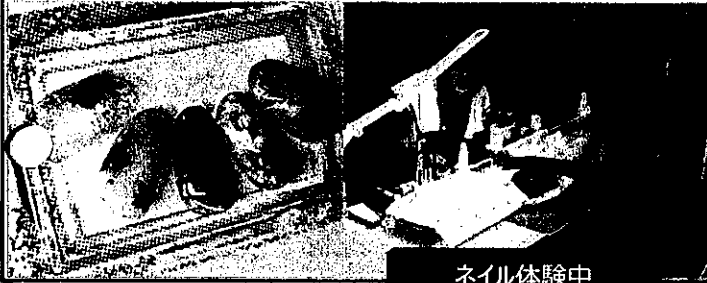
取材風景

2. 新たな魅力の発掘と発信 ー②観光資源としての魅力アピール

● 蜷川実花展関連イベント

【ネイルアート体験 7/22実施】

「花」や「蝶」の作品が多く、女性の人気が高い作家ということでネイルアートのイベントを実施した。ネイルデザインには桜・ひまわり・蝶など蜷川実花展に関連づけたものを使用した。コロナ感染症対策のため、ネイル協会のガイドラインにも沿って実施。当日に整理券を配布する完全予約制とし、安全面についても配慮した。



ネイル体験中

【ジャンボフラワーWS、フォトスポット 7/23実施】

「蜷川実花展」の色鮮やかな花々にちなんで紙を使ったジャンボフラワー制作のワークショップを実施した。山梨・静岡で活躍している人気講師のイベントとあって、好評。当日は、親子連れや女性を中心に、講師の指導のもと色とりどりの花作りに熱中し、館内は一段と華やかさを増した。



ワークショップ



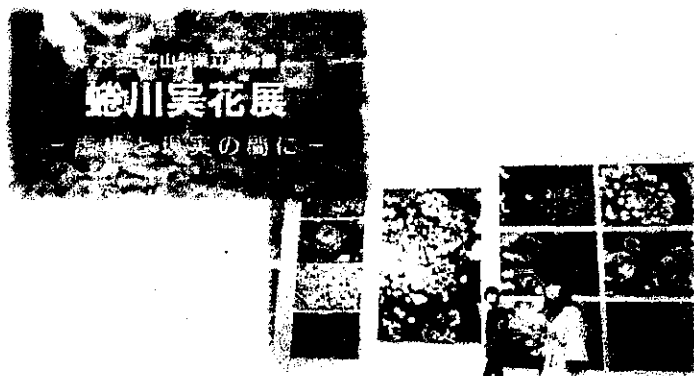
フォトスポット

2. 新たな魅力の発掘と発信 ー②観光資源としての魅力アピール

● おうちで楽しむ動画配信

【おうちで山梨県立美術館】

蜷川実花展の広報用に制作していた展覧会の見どころ紹介動画を臨時休館に合わせてリメイク。休館中にも、おうちで展覧会の内容を楽しんで頂けるようにホームページに掲載し接点を増やした。(視聴回数：1,900回以上)



【彫刻たんけんツアー】

休館中も芸術の森公園を楽しんでもらい、再開後に開催する「野外彫刻たんけんツアー」(公園内の彫刻を紹介)の告知も兼ねて、『おうちで彫刻たんけんツアー』の動画を制作配信した。(視聴回数：400回以上)



3. レストランの取り組み

- レストラン アート・アーカイブス：特別展の内容に合わせたメニューを用

「デオ・ヤンセン」展

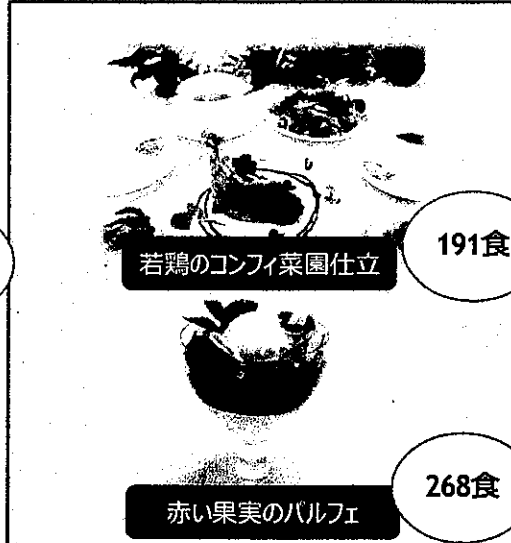
作家の故郷オランダに因んだ食材を使用したコース料理

「蜷川実花」展

エディブルフラワー（食用花）をあしらひ、色鮮やかな蜷川作品をイメージ

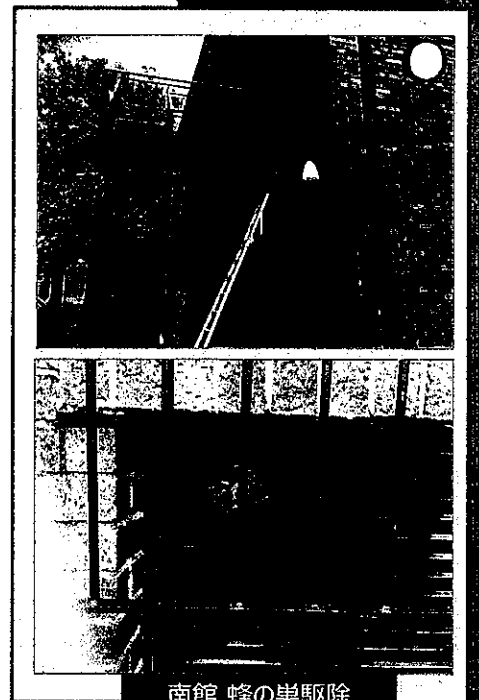
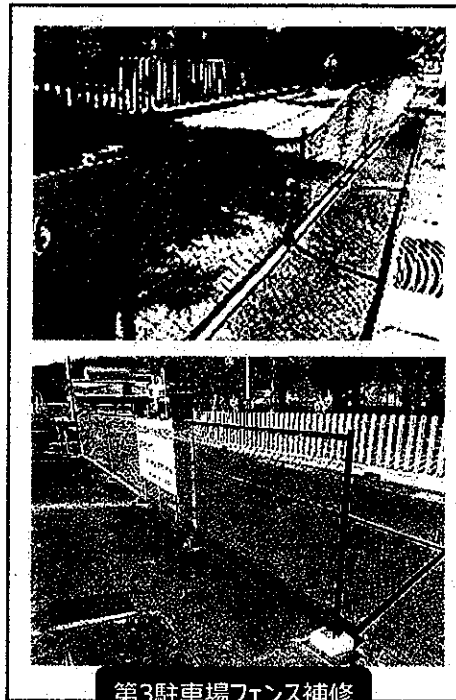
「新編 浮城物語」展

「和」のイメージを演出し、和食のメニューを提案



4. 安心・安全な施設の維持管理

- 公園及び周辺施設の整備



6. 下期に予定している活動

広報・自主事業

- ▶ 野外彫刻たんけんツアー（10月～11月）
- ▶ ナイトミュージアム（10月～12月）
- ▶ かぞくでアートたいむ（10月～11月）
- ▶ 県民の日イベント（11/20）
- ▶ 芸術の森マーケット（12/4、5）
（文化庁：文化クラスター推進事業）
- ▶ 正月イベント（1月予定）
- ▶ ニューイヤーコンサート（1/10）
- ▶ 新版画展記念コンサート（10/10済）
- ▶ シダネルとマルタン展関連イベント（11/7済）

終わり

